

# 農業総合研究センター かわら版

第27号 平成19年5月31日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘 6060-27

電話：023-647-3510

e-mail：[nokense@pref.yamagata.jp](mailto:nokense@pref.yamagata.jp)

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見  
ご要望をお待ちしております。

## 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 “研究成果公開セミナー”を開催しました。

平成19年度山形大学農学部、県農林水産部連携推進協議会総会と研究成果公開セミナーが、山形大学農学部を会場に5月29日に行われました。

研究成果公開セミナーでは『「食と農と環境の創造」自然の贈り物～美しい景観と美味しい食べ物～』をテーマに6課題の研究成果の発表を行い、一般の参加者も含め、130名ほどが出席しました。

研究成果公開セミナーの様子



山形大学農学部からは中島学部長、藤井弘志教授、江頭宏昌准教授、農業総合研究センターからは今野周開発研究専門員、中場勝開発研究専門員が、森林研究研修センターからは渡部公一主任専門研究員が、米の品種開発、エダマメの加工に関する研究成果、海岸林保存にむけた研究開発などについてそれぞれ発表を行いました。

一般の方々、農業団体や山形大学の学生等の参加もあり、農学部や試験研究機関で開発した技術、研究成果を知っていただくよい機会となりました。

その後、発表者を交えてのパネルディスカッションを行い、「自然の贈り物をど

のように活かしていくか、美しい景観を守るためには何が必要か、美味しい食べ物をさらに美味しくするには何が必要か」について意見交換がなされ、米の品種開発、エダマメの品種、系統についての方向性やクロマツ林の保全にむけた考え、また、今後の研究開発に向けた夢など、パネラーの方々から熱く語られました。

今後とも、研究者同士の信頼関係、つながりをより一層深めていき、山形の美しい景観、美味しいものを活かせる研究開発と連携による共同研究を進めていきたいと考えています。



パネルディスカッション



連携推進協議会総会

## 「寒冷地におけるイチゴの周年供給システム」に係る現地推進会議を開催しました！

(最上総合支庁農業技術普及課産地研究室)

平成19年5月30日、最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室及び最上管内現地園地において、山形県農業総合研究センター主催の「寒冷地におけるイチゴの周年供給システム」に係る現地推進会議を開催しました。

参加者は、東北大学金濱耕基先生、秋田県立大学高橋春實先生を始め、東北農



業研究センターの方々、また、現地実証農家や県内関係機関など52名

出席いただきました。

本プロジェクトは、東北農業研究センターを中心に東北6県の連携課題として実施しており、各地域の特徴を生かしながら夏秋いちごの生産拡大に向けた研究を行っています。

今回の会議では、二槽ハンモック気化冷却ベンチによる夏秋いちご栽培の研究成果や技術移転状況の紹介と今年度以降の取り組み方向を検討し、参加者による活発な意見交換が行われました。

今回の推進会議での貴重な意見、助言



を参考にしながら、最終年度の研究を着実に進め、本プロジェクトでの研究成果を速やかに

技術移転し、本県が夏秋いちご産地となるように取り組んでいきたいと思ひます。

## 高等学校インターンシップの実施

(農業環境研究部)

寒河江高等学校果樹園芸科3年生3名が5月28日～30日の3日間、農業総合研究センター農業環境研究部にてインターンシップ研修をしました。

3日間の研修内容は、農産加工開発科では、産地の違うエダマメの色や糖度・固さなどの品質調査やデーターの処理方法、食の安全研究科では、農薬ドリフト調査のために移植するエダマメの播種作業、作物資源開発科では話題の新品種「山形97号」の田植や機械収穫のためのエダマメの移植作業等に汗を流しました。研修の合間には、新品種の味や特徴、エダマメの収穫時期や主産地などの質問が指導している研究員になされるなど、有意義な3日間の受け入れでした。

研修後、生徒からは「学校で体験できないことがやれて良かった」、「稲の手植え体感は初めて。だけど本数を数えて植えるのは難しい」、「エダマメの莢剥き機などの操作を通じて研究の現状が少し分かった」等の意見が聞かれました。これからは高等学校とのインターンシップの計画があります。農業や研究への理解向上のため今後とも積極的に協力していきたいと思ひます。

